

新商品の開発による売上アップをめざして

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

H 法人は、大津市でブルーベリー栽培、加工品販売、地産地消レストランの運営をされています。新型コロナウイルスの影響で既存販路の売上が激減し、またレストランを閉店することとなり、売上げの確保が急務の課題でした。そこで、新商品の開発、企画についての支援を行いました。

【普及活動の内容】

レストラン客からの「レストランの味を家で食べたい」という声をヒントに、自社農園や地域の食材を使ったスープ等の新商品の開発を支援しました。当課は、製造に必要な機器の提案、商品の仕上がりを均一にするための加工終点の判断方法、包装資材の選定、賞味期限設定などについて助言しました。

【普及活動の成果】

①スープ新商品の誕生

中食用商品の要望に応えようと社内での試食会を重ね、商品の開発に取り組みました。家庭で手軽に再現できるように工夫した試作品を顧客に送付し、頂いた意見を参考に、素材の味を重視し、大きな野菜の入った食べ応えがある野菜スープが完成しました(写真1)。

自社農園の野菜を活かしたジャガイモ、キャベツ、聖護院かぶら、ニンジン、タマネギの5種類の「そのままシリーズ」と「赤かぶポターージュ」が完成し、大手百貨店のお取り寄せ商品カタログにも掲載されるほど完成度の高いものとなりました。

②一味違ったジャムの登場

今まで販売していたジャムも改良しました。巣ごもり需要の要望に応え、使用していた糖の一部を麦芽糖に変えることで食感をさらによくした「ブルーベリージャム」、県内産牛乳から作った練乳とジャムをコラボした「ミルクジャム」などをラインナップに加えました(写真2)。

これらの新商品は、百貨店の催事等で販売され、スープは約2,000食、ジャムは約1万本の販売となり、売上げは回復の兆しをみせています。



写真1 野菜スープ「そのままシリーズ」と「赤かぶポターージュ」



写真2 新たなジャム商品

◎対象者の意見

商品企画について、第三者の意見が聞けて参考になりました。新たな商品開発に取り組むことで、社内の雰囲気盛り上がりとともに、売上げがアップし回復傾向となりました。(代表者)